

寄せられた意見とそれに対する市の考え方

平成31年2月4日から3月6日までの30日間、市民の皆さんから「いのち支える守谷市自殺対策計画（案）」に対する意見を募集しました。

この期間、市民の皆さんから寄せられたご意見及びご意見に対する当市の考え方は次のとおりです。

◎重点施策「子ども・若者に対する支援の充実」について

意 見 の 要 旨	件数	意見に対する市の考え
「いじめを苦にした子どもの自殺予防」は、従来から守谷市の中学校で力を入れて素晴らしい活動を実践してきたことであり、それでも20代の自殺率が高いということを考えていかななくてはならないと思う。「いじめを苦にした」ということではなく、広く心の健康を育て、自殺予防に効果のある「自殺予防教育」（文部科学省にもガイドラインがあり、研究や実践も進んできました。）を取り入れていく必要があるのではないか。	1	◇原案どおりとします 文部科学省のガイドラインにあるように、子どもを直接対象とする自殺予防教育を行うに当たっては、予想外の危険な事態が起きないようにする十分な準備が必要であると考えています。 現在の市立小中学校における取組は、いじめに係る教育活動を重視しており、総じて、お互いを認め合い支え合えるような、よりよい人間関係づくりのための学習や集会活動を各校で工夫し、継続して取り組んでいます。 今後、これらの取組を「自殺予防教育」として位置付けできないか、整理して参ります。
総合教育支援センターにおける支援は、従来から行われてきたことである。そのような活動が行われてきていても若年層の自殺率が極めて高くなっており、対策としては、従来通りでは不十分であると考えるべきである。一般に福祉や教育など人を支援する領域では、スタッフの充実と専門性の向上が最も大切なことだと言われている。守谷市では、心理の専門職を雇用しているか。また、スタッフの研修は充実しているか。	1	◇原案どおりとします 総合教育支援センターにおいては、公認心理師1名、学校心理士3名を配置しているほか、全ての相談員が学校長経験者や特別支援教育に携わっていたスタッフであり、それぞれ専門性を生かした相談・支援に取り組んでいます。また、スタッフの研修に当たっては、相談員だけでなく学校教職員、保護者も参加できる研修を行っています。そのほか、医療等の専門機関や児童生徒の成長に携わる行政等との連携に注力しており、従来の教育相談活動に加え、必要に応じて迅速に専門機関や専門職を紹介する体制を年々強化しています。 今後も、さらに支援センターの機能を生かして、学校と専門機関の連携強化に努めて参ります。

意 見 の 要 旨	件数	意見に対する市の考え
「地域ケアシステム」とは、「地域包括ケアシステム」のことか。地域包括ケアシステムは、高齢者の健康維持のためのシステムだと理解しているが、ただ単に従来のシステムに若年層の支援を行うようにするのでは、効果が上がらないと思われる。具体的な方法が書かれていないが、具体的・実地的な方法を行う必要がある。	1	◇原案どおりとします 「地域包括ケアシステム」は、高齢者を対象としたシステムであるのに対し、ここで言う「地域ケアシステム」は、平成6年から茨城県独自の福祉施策として開始されたもので、高齢者や障がい者など支援を必要とする全ての方々に対して、保健・医療・福祉の関係者や地域住民・ボランティア等による在宅ケアチームを編成し、本人及び家族全体の生活支援を行うものであり、守谷市社会福祉協議会に委託し実施しているものです。 義務教育終了後も支援が途切れることのないよう、地域ケアシステムとの連携を図っていきたいと考えております。
成人式に関連付けるのであれば、成人式の実行委員会のメンバーにストレスマネジメント講座やゲートキーパー講座を受講してもらうことは、若年層の中のキーパーソンに学んでもらうことになるので意味があると思う。	1	◇原案どおりとします ご意見を参考に、基本施策2「②ゲートキーパーの養成」の取組において、若年層にゲートキーパー養成講座を受講してもらえるような方法を検討いたします。
SNSで情報を発信したからといって、必要な層に情報が届くとは言えない。保健センターがTwitterで情報発信するだけでなく、従来からある守谷市のSNSで情報発信することが重要である。守谷がゲートキーパーに話を聴いてもらったとか、ストレスマネジメント講座に参加したとか、相談窓口を紹介しているとか、そういった協力が得られると情報が若年層まで届くのではないか。	1	◇原案どおりとします 広報紙や市ホームページ等で情報提供するほか、より若者に情報が届くようSNSを活用し情報発信するものですが、実施に当たっては、ご意見を参考に、より情報が若年層に届くような方法を検討いたします。
若年層への普及啓発として、例えば、アサヒビールと協働で、ストレスマネジメント講座を休日に開催して、アルコールとストレスなどの内容で、アルコール依存症予防などの情報とともにストレスマネジメント講座を実施して、講座後にビールが飲めるなどのイベントはどうか。	1	◇原案どおりとします 現在のところ、若年層を対象とした普及啓発を目的としたイベント等の実施は考えておりませんが、今後の参考とさせていただきます。

◎自殺対策の取組について

意 見 の 要 旨	件数	意見に対する市の考え
マインドフルネスを学ばれている方のワークショップを無料で受けられるようにしてはどうか。	1	◇原案どおりとします 今後の事業検討の際の参考とさせていただきます。